

ホトケノザとオオイヌノフグリの天下

ホトケノザはありふれたシソ科の雑草である。だが、写真と組み合わせたいろいろなブログを読むと、親しみをもたれている雑草に思える。

光田重幸氏の「草花ウォッチング」（03年NHKテキスト）によれば、ホトケノザの蜜が小さい子どもをとりこにするとある。自分が幼稚園のころ、そんなことは教わらなかったな。その代わりに、ツツジの中に潜りこみ人目を盗んで蜜をすったし、桑畑に隠れクワの実をつまんだ。とても甘かった記憶。

オオイヌノフグリはゴマノハグサ科の雑草だが、小さい花にもかかわらず、澄んだるり色が道端で異彩を放つ。

ホトケノザとオオイヌノフグリは、野山に春を告げる代表的な花たち。両者揃って放置された田んぼを占拠していた。ホトケノザはちょっと湿った田んぼの平面に、そしてオオイヌノフグリは傾斜した畦に広がっていた。



ホトケノザの大群落



ホトケノザの蜜を吸う虫



オオイヌノフグリ。花は可愛いのに、名前がよくないか。